

平成 14(2002)年 7月～12月 **長期漁況海況予報** 平成 14(2002)年 7月発行

大分県海洋水産研究センター 879-2602 大分県南海部郡上浦町大字津井浦

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

海況経過<平成 14 年前期>

黒潮

平成 13 年 12 月中旬、薩南海域で起きた離岸現象は 12 月下旬～14 年 1 月上旬に九州南東沖、1 月中旬に足摺岬沖を通過後、1 月下旬～2 月上旬に土佐湾沖～紀伊水道外域で離岸現象を引き起こしました。2 月上旬、九州南東沖で小蛇行が発生し、2 月中旬～下旬、小蛇行の一部は土佐湾沖へ東進しましたが、残りの小蛇行は 3 月上旬に日向灘沖で発達し、3 月中旬、その東端が足摺岬沖を通過しました。4 月上旬に日向灘沖で大きく発達した小蛇行は 5 月中旬に潮岬沖を通過しました。

黒潮北縁と都井岬及び足摺岬との距離の状況は、期間を通して離接岸を繰り返しました(図 1)。



足摺岬：接岸 0～25 マイル やや離岸 25～45 マイル 都井岬：接岸 0～30 マイル やや離岸 30～50 マイル

図 1 足摺岬南及び都井岬南東方向の黒潮北縁までの距離(南西東海沿岸海況速報による)

水温

豊後水道の水温(0m、10m、20m、30m、50m及び75m層)は、「きわめて高め」～「やや低め」でした(表1)。大分県側の海域を北部(沿岸定線Sta. 1-9)、中部(同Sta. 10-16)及び南部(同Sta. 17-22)に分けると、北部では1-2月及び5月は「平年並」、3月は「やや高め」、4月及び6月は「きわめて高め」の傾向となりました。中部では1月は「やや低め」、2月及び5月は「平年並」、3-4月及び6月は「やや高め」の傾向となりました。南部では1月及び3-4月は「平年並」、2月及び5月は「やや高め」～「平年並」、6月は「高め」～「平年並」の傾向となりました。

伊予灘と別府湾の水温(0m、10m、20m、30m 及び50m層)は、「きわめて高め」～「平年並」でした(表2)。伊予灘では1-2月及び5-6月は「平年並」、3-4月は「やや高め」の傾向となりましたが、6月の0m層については「きわめて高め」でした。別府湾では4月が「やや高め」となった他は、期間を通して「平年並」の傾向となりました。

塩分

豊後水道の塩分は、「やや高め」～「やや低め」でした。北部3月が「やや高め」となった他は、期間を通して「平年並」の傾向となりました。

伊予灘と別府湾の塩分は、「やや高め」～「低め」でした。両海域とも期間を通して「やや高め」～「平年並」の傾向となりました。

表1 水温の平年偏差評価（豊後水道 2002 年）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月
(北部)	0m	- +	+ -	+	+	+	++
	10m	- +	+ -	++	+++	+ -	+++
	20m	- +	+ -	+	+++	+ -	+++
	30m	- +	+ -	+	+++	+ -	+++
	50m	- +	+ -	+	+++	+	+++
	75m	-	+ -	++	+++	- +	++
	(中部)	0m	-	- +	+	+ -	+ -
10m		-	- +	+	+	+ -	+
20m		-	- +	+	+	+ -	+
30m		-	- +	+	+	+ -	+
50m		-	+ -	+	++	+ -	+
75m		-	- +	+	++	- +	+ -
(南部)		0m	- +	+ -	+ -	- +	+
	10m	- +	+ -	+ -	- +	+	++
	20m	- +	+	+ -	- +	+	+
	30m	- +	+	+ -	+ -	+ -	+ -
	50m	- +	+	+ -	+ -	+ -	+ -
	75m	-	+ -	+	++	+ -	+

表2 水温の平年偏差評価（伊予灘・別府湾 2002 年）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月
(伊予灘)	0m	+ -	+ -	+ -	+	- +	+++
	10m	+ -	+ -	+	+	+ -	- +
	20m	+ -	+ -	+	+	+ -	+ -
	30m	+ -	+ -	+	+	+ -	+ -
	50m	- +	+ -	+	+	+ -	+ -
	(別府湾)	0m	- +	+ -	+	+	+ -
10m		+ -	+ -	+ -	+	+ -	- +
20m		+ -	+	+ -	+	- +	- +
30m		+ -	+ -	+ -	+	+ -	+ -

注) +++:きわめて高め ++:高め +:やや高め + -:高めの平年並
 - -:低めの平年並 -:やや低め - -:低め - -:きわめて低め

海況の見通し<平成 14 年後期>

黒潮

8月後半に九州南東沖で小蛇行が形成されるが、その離岸の規模は小さいでしょう。この小蛇行は9月に四国沖を東進しますが、足摺岬沖～潮岬沖における離岸も規模は小さいでしょう。10月後半～11月前半にも九州南東沖で小蛇行が形成され、11月～12月に四国沖を東進するでしょう。そして、黒潮の小蛇行の通過や小規模な離接岸変動に伴って、沿岸域への一時的な暖水波及が起きるでしょう。

水温

「平年並」～「やや高め」でしょう。

予測の根拠

中央水産研究所及び関係府県:平成14年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料(2002)

気象庁気候・海洋気象部:平成14年夏季の北西太平洋の海面水温予報(2002)

神戸海洋気象台:平成14年夏季の南日本海区の海面水温予報(2002)

資源状況と漁況経過 <平成 14 年前期>

マイワシ

昨年までの経過

大分県漁協鶴見、米水津及び蒲江支店のまき網(特にことわりのない限り、まき網についての数値は、この3支店に関するもの)によるマイワシの漁獲量は、1986年以降の1990年までの間は、年間30,000トン前後あり、その大半は3月から7月に漁獲される体長15cm以上の「中羽」以上でした。1991年以降、「中羽」以上は減少傾向となり、一方、7月から9月に主に漁獲される体長10cm前後の「小羽」も、1993年に一旦増加しましたが、その後は低調に推移しました。全銘柄の漁獲量は1998年まで8年連続で減少し、1999年は前年に比べ僅かながら増加しましたが、2000年は再び減少し、約450トンと過去最低値を記録しました。そして、2001年は1月下旬から2月中旬にかけてまとまった漁獲があり、約1,750トンと5年ぶりに1,000トンの水準を超えました(図2)。

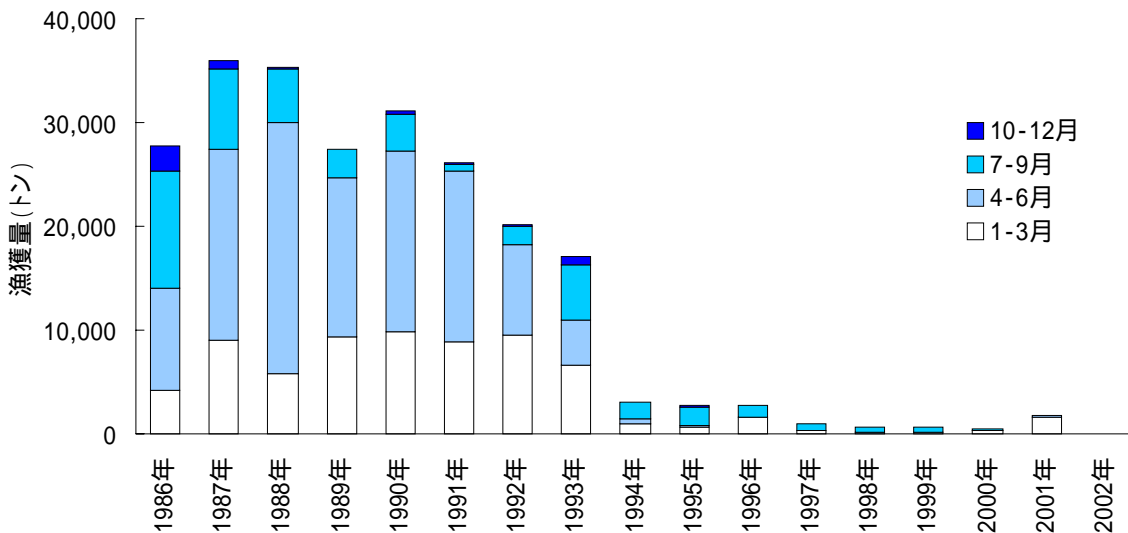


図2 マイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

本年の経過

2002年前半の月別漁獲量は、1～3月は漁獲がなく、4～6月は1トンで平年比は1%に満たず、この時期の漁獲としては1-3月期、4-6月期ともに過去最低値を記録しました(以下、まき網の平年値を1986～2001年の平均漁獲量とする)。

カタクチイワシ(成魚)

昨年までの経過

まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、これまで一年毎に増加と減少を繰り返しており、漁獲の多い年(偶数年)で2,000～3,000トン程度、漁獲の少ない年(奇数年)で1,000トン前後の漁獲となっていました。しかしながら、1999年には1月中旬から7月中旬にかけて豊漁が続き、過去最高の漁獲となりました。平年の漁期は6月から9月までが中心であり、1999年は漁獲量及び漁期とも特異的な年となりました。そして、2000年は約2,100トン、2001年は約2,800トンと比較的高水準の漁獲となりました(図3)。

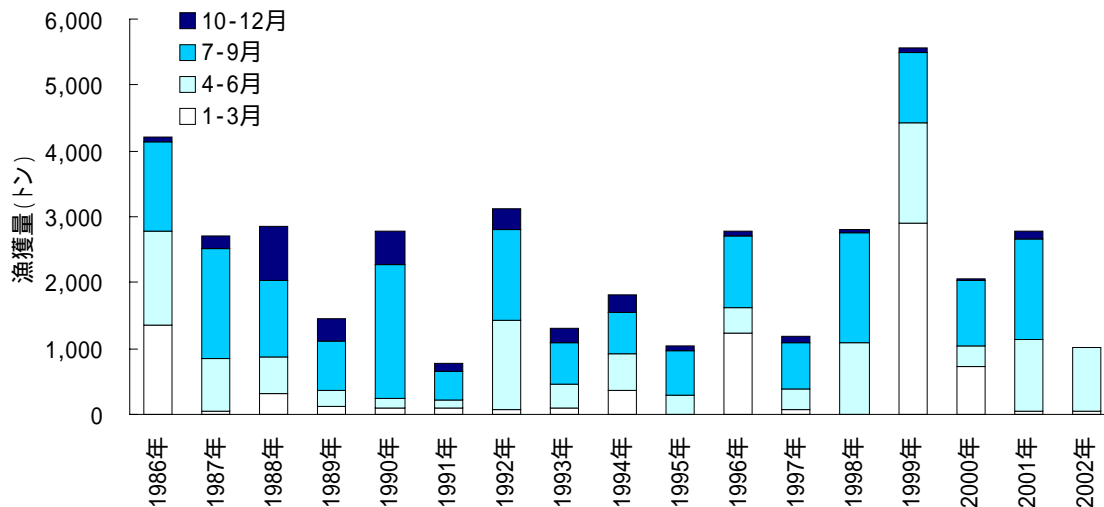


図3 カタクチイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

本年の経過

2002年前半の月別漁獲量は、1～3月は57トン、平年比12%と不漁の前年並みで、平年を大きく下回りましたが、4～6月は935トン、平年比141%と豊漁に転じ、特に6月は747トン、平年比192%と好調でした。

カタクチイワシ(シラス)

昨年までの経過

佐伯湾(佐伯・鶴見)の船曳網によるシラスの漁獲量は、1992年に約530トンの最高値を記録した後は、減少傾向となり、1995年には200トン进行り込みましたが、その後は、1993年以前の水準には及ばないものの増加傾向を示しました。しかしながら、2001年は約160トンと、過去最低の漁獲となりました。

別府湾(杵築・日出)では、1991年以降1,200～2,200トンの範囲で変動しましたが、1998年に初めて1,000トン进行り、約750トンと過去最低値を記録しました。そして、1999年以降は再び1,000トンを超える水準となりましたが、減少傾向で経過しました。

臼杵・津久見湾では、1991年以降0～106トンの範囲で大きく変動しており、2001年は13トンで、平年比36%となりました(以下、船曳網の平年値を1991～2001年の平均漁獲量とする)。

(推計方法: 別府湾の漁獲量 = 製品(ちりめん)重量 × 2.514、豊後水道の漁獲量 = 製品(ちりめん)重量 × 2.380)

本年の経過

2002年前半の月別漁獲量は、佐伯湾では1～3月はほとんど漁獲がなく(平年比1%)、4～6月は45トン、平年比47%と低調に推移しました。

別府湾では1～3月は50トン、平年比37%、4～6月は146トン、平年比43%と低調に推移しました。

臼杵・津久見湾では1～3月は漁獲がなく、4～6月は9トン、平年比62%となりました。

ウルメイワシ

昨年までの経過

まき網によるウルメイワシの漁獲量は、1986年以降100～300トン程度でしたが、1992年以降は増加傾向を示し、1996年には約2,300トンまで達しました。しかしながら、1997年以降は減少傾向に転じました。そして、2001年は約1,040トンと、3年ぶりに1,000トンを超える水準となりました。漁獲は主に夏期の6～8月に多くなりますが、近年は冬期の1～3月にもまとまった漁獲がみられました(図4)。

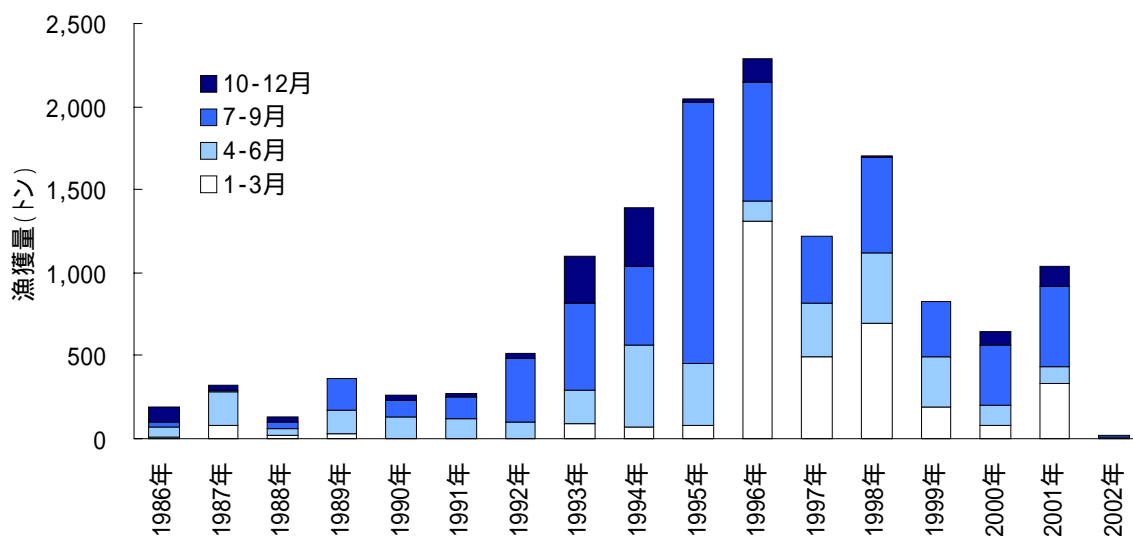


図4 ウルメイワシのまき網漁獲量(鶴見町・米水津村・蒲江支店)

本年の経過

2002年前半の月別漁獲量は、各月0～6トン、平年比0～9%と大低迷しました。1～3月は5トン、平年比2%となりました。4～6月は8トン、平年比4%となり、この時期の漁獲としては過去最低値を記録しました。

マアジ

昨年までの経過

まき網によるマアジの漁獲量は、1986年以降減少傾向を示し、1991年に1,000トンを割り込みましたが、1992年以降は増加傾向に転じており、1998年には約7,500トンの漁獲で過去最高値を記録しました。しかしながら、1999年以降は減少傾向となり、2001年は年前半の不漁により約2,270トンと低迷しました(図5)。

また、佐賀関支店の釣りを中心とするマアジの漁獲量は、1988年以降増加傾向が継続し、1999年には248トンに達し、過去最高値を記録しました。しかしながら、2000年は一転して170トン(平年比83%)と落ち込み、これまでの安定的な増加傾向が止まりました。そして、2001年は196トン(平年比96%)と前年を上回り、平年をやや下回る漁獲となりました。(以下、佐賀関町漁協の平年値を1988～2001年の平均漁獲量とする)。

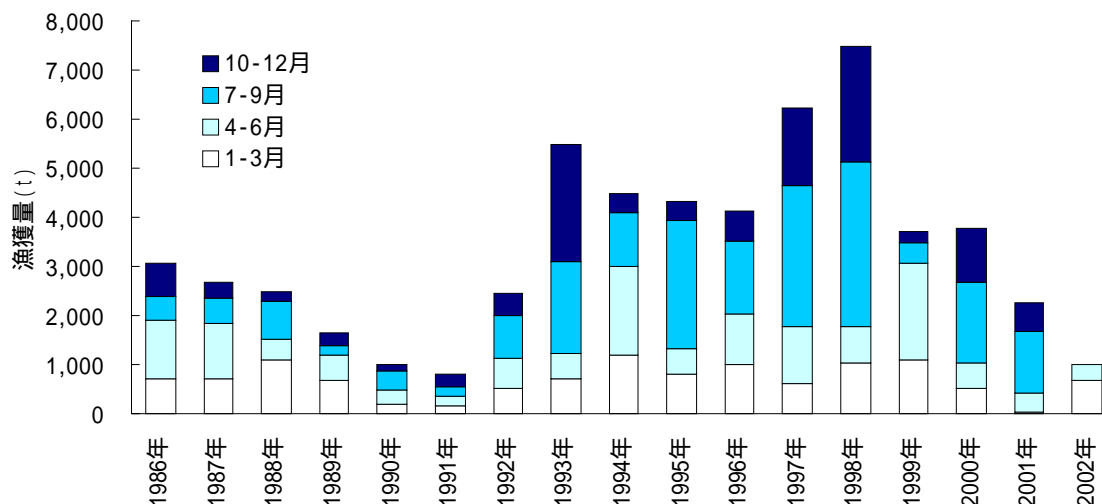


図5 マアジのまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江支店）

本年の経過

まき網の2002年前半の月別漁獲量は、3月のまとまった漁獲により、1～3月は667トン、平年比97%となりました。4～6月は326トン、平年比40%と不漁の前年をさらに下回り、低水準となりました。

佐賀関支店の月別漁獲量は、1～3月が51トン（平年比102%）、4～6月は52トン（平年比93%）と平年並みの漁獲となりました。

マサバ・ゴマサバ

昨年までの経過

まき網による「さば類（マサバ・ゴマサバ）」の漁獲量は、1993年以降増加傾向を示し、1996年及び1997年には、それぞれ約14,000トンと約12,000トンをあげて豊漁となりました。しかしながら、1998年は一転してほとんど漁獲がなく、1986年以降初めて1,000トンを割り込みました。そして、1999年からは低水準ながら増加傾向を示しましたが、2001年は大不漁となり、約690トンと過去最低値を記録しました。「さば類」のうち、1994年以降はゴマサバが漁獲主体で、マサバの漁獲はほとんどない状況でしたが、2001年にはマサバの占める割合が比較的高い傾向がみられました（図6）。

また、佐賀関支店の釣りを中心とするマサバの漁獲量は、豊漁であった1992年と1993年を除き、ほぼ100～200トンの範囲で変動しました。1998年以降は120トン前後で横ばい傾向となりました。また、2～3年の短い周期で増減を繰り返す変動傾向もみられました。

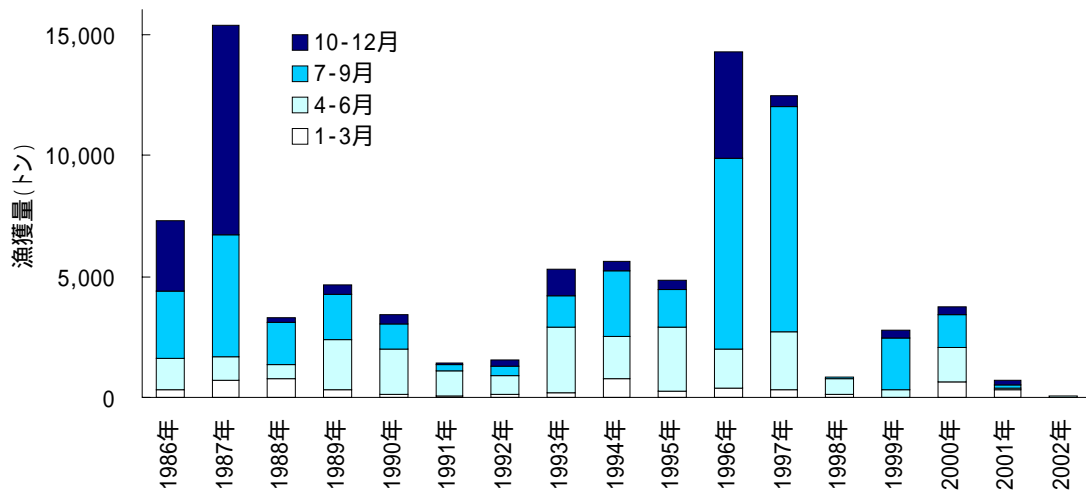


図6 マサバ・ゴマサバのまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江支店）

本年の経過

まき網のゴマサバを主体とする2002年前半の月別漁獲量は、各月0～27トン、平年比0～8%と前年からの不漁が継続し、大低迷しました。1～3月は18トン、平年比5%となり、この時期の漁獲としては過去最低値を記録しました。4～6月は33トン、平年比2%となり、この時期の漁獲としては過去最低値を記録した前年並みの漁獲となりました。

佐賀関支店のマサバの月別漁獲量は、1～3月が70トン(平年比88%)、4～6月が10トン(平年比42%)と平年を下回りました。

漁況の見通し<平成14年後期>

マイワシ

【太平洋系(北薩 - 熊野灘)の見通し】

来遊量は低調の前年並みか前年を下回るでしょう。



[説明]資源量は1995年から2000年までは低水準ながら比較的安定していましたが、2001年は減少し、2002年はさらに減少したと推定されます。2000年級群がすでに少なく、2001年、2002年級群ともに低水準の加入で、資源水準は極めて低いと考えられます。

【大分県の見通し】

漁獲量は比較的大きな周期で増加あるいは減少すると考えられ、来遊水準は直前の漁獲水準と相関が高い傾向にあります。漁況経過からみると、来遊水準はさらに低まり、依然として低水準でしょう。

カタクチイワシ(成魚・シラス)

【太平洋系(北薩～紀伊水道西部の成魚)の見通し】

来遊量は北薩では前年を下回り、日向灘では前年を上回るでしょう。豊後水道西部では前年並み、東部では0歳魚は前年並み、1歳魚は前年を上回るでしょう。宿毛湾では前年を上回り、紀伊水道西部では夏季は前年を上回るでしょう。



【太平洋系(志布志湾～常磐南部のシラス)の見通し】

来遊量は志布志湾、日向灘、豊後水道東部では前年を上回るでしょう。豊後水道西部、土佐湾では不漁の前年並み、紀伊水道では前年を下回るでしょう。伊勢湾、渥美外海では前年を上回るでしょう。駿河湾～遠州灘では前年並みか前年を下回るでしょう。相模湾では前年並み、常磐南部では前年を下回るものの前年並みでしょう。



[説明]資源水準は高位で、横ばい傾向にあると考えられますが、漁況経過からみると、成魚、シラスともに一概に好調とは言えず、来遊の低調な海域もみられます。

【大分県の見通し】

成魚については、昨年10月から不漁が継続していましたが、本年4月・6月と前年を上回る漁獲となり、来遊水準は回復し、増加傾向にあると考えられ、前年・前年並みでしょう。

また、シラスについては、来遊水準は佐伯湾、別府湾ともに本年1月から6月にかけて徐々に増加傾向を示しているものの、低水準にあると考えられ、前年並みで、前年を下回るでしょう。

ウルメイワシ



【太平洋南部系(北薩 - 熊野灘)の見通し】

来遊量は北薩では前年、平年を上回るでしょう。日向灘、豊後水道では前年を下回るでしょう。土佐湾では前年、平年並みでしょう。紀伊水道では低調の前年並み、熊野灘では前年を下回るでしょう。

【説明】資源水準は中位で、横ばい傾向にあると考えられます。漁況経過からみると、一部の海域を除き、低調な海域が多くみられます。

【大分県の見通し】

漁況経過からみると、来遊水準は昨年12月以降激減していると考えられます。また、当該時期の漁獲量は当年3～6月のCPUEと比較的高い相関($r=0.62$)があり、これから推定すると約230トン(前年比38%、平年比48%)の漁獲となります。従って、本魚種は好不漁の月変動が大きいですが、前年・平年を下回るでしょう。

マアジ



【太平洋系(薩南 - 日向灘・豊後水道)の見通し】

来遊量は0歳魚は前年並みか前年を下回るでしょう。1歳魚は豊後水道西部では前年を下回るが、その他の海域では前年を上回るでしょう。全体として薩南では前年を上回るが、その他の海域では前年並みか前年を下回るでしょう。

【説明】資源量は1990年代に入り良好な加入に支えられて高水準で推移してきましたが、1997年以降、加入の減少とともに3年連続して減少しました。しかしながら、1999年を谷として2000年、2001年と加入が良好で回復に向かい、2001年には非常に良好な加入により、一挙に高水準に転じました。但し、沿岸域への暖水波及の頻度が低下するとマアジの来遊が途絶える可能性があり、この場合、豊度の高い2001年級群の来遊が反映されない海域があります。また、2002年級群については、好調の前年を超えることはなく、前年並みか前年を下回ると推定されます。

【大分県の見通し】

漁況経過からみると、本年に入り来遊水準は減少傾向にあると考えられ、漁獲主体となる0歳魚の4～6月加入も低調なため、平年、前年をともに下回るでしょう。

なお、上述・2001年級群の豊度は高いと推定されており、豊後水道域に黒潮による暖水波及が強まるなどすれば、1歳魚の好漁場が形成される可能性もあります。

マサバ・ゴマサバ



【太平洋系(薩南 - 日向灘・豊後水道)の見通し】

来遊量はゴマサバ0、1歳魚は少なかった前年並み、2歳以上は少ないでしょう。マサバは低い水準でしょう。さば類全体としては、前年並みの低水準でしょう。

【説明】ゴマサバの資源量は近年では1996年級群が卓越年級群であり、1999年級群の豊度が次いで高いと推定されます。2000年級群の豊度は全体としては1999年より低いですが、豊度の低かった1997年、1998年と比較すれば高いと言えます。2001年級群の豊度は2000年にはやや及ばないと現状では推定されます。2001年級群についての情報は十分ではないものの、一定の漁獲をみる群として来遊するものと想定されます。ゴマサバの資源水準は中位で、横ばい傾向にあると考えられます。また、マサバの資源水準は低位で、減少傾向にあると考えられます。

【大分県の見通し】

漁況経過からみると、来遊水準は非常に低い状態で停滞していると考えられ、不漁の前年並みで、平年を大きく下回るでしょう(ゴマサバ主体)。

その他

予測の根拠

中央水産研究所及び関係府県：平成14年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料(2002)

問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県海洋水産研究センター 企画・海洋資源利用部まで

(〒879-2602 大分県南海部郡上浦町大字津井浦 電話0972-32-2155 ファクシミリ0972-32-2156 e-mail: kimura@mfs.pref.oita.jp)